

## 鍼灸治療



石川ゼミ症例ミニノート 1

### 五更泄の鍼灸治療

大西鍼灸院

大西 清文

中央医療学園専門学校

氏野 美佳

**■症例** 63歳 女性

**主訴**：明け方の下痢

**現病歴**：5年前の夏に腸閉塞手術，4年前に明け方4時頃，腹痛のため目覚めて下痢便があり，食後の7時半頃にも腹痛を伴う2度目の下痢があった。近医から止瀉剤を処方され半年後に緩解する。2年前，同症状出現し同様に半年で緩解。今回は1カ月前から軟便が始まり，明け方就寝中に腹痛を伴う下痢が3日前から出現した。足冷が平素からある。

**既往歴**：30代前半で虫垂炎手術

**初診時舌脈所見**：脈滑・右尺無力 舌嫩滑

**診断**：五更泄，脾腎陽虚

**治療方法**：鍼(背臥位，腹臥位ともに置鍼15分) 箱灸(気海，関元置針中に網のついた箱に温灸を神闕，関元の直上に乗せて温める)。

**取穴部位**：背臥位：気海，関元，中脘，上巨虚，太谿（3診目は三陰交に交換）。

腹臥位：腎兪，脾兪，意舍，志室，右大腸兪，右関元兪。

腹臥位経穴すべてに圧痛所見を認める。

**経過**：3回の治療で普通便になる。脈診では1診目は右尺無力，2診目（3病日後）は両側尺無力，3診目（7病日後）右関無力と変化した。

#### 【臨床ノート】

- ・平素，胃腸が弱く，足冷えがあり，久泄に移行する頃の下痢は虚証が多い。
- ・夜明けの頃に腹痛を伴う下痢は，五更泄の脾腎陽虚が考えられる。

- ・五更泄は高齢者に多く見られ、西洋薬の止瀉剤が奏効しにくい例がある。
- ・鍼灸治療は短期間で奏効しやすく、気海、関元の箱灸が本証治療の要と考える。
- ・六部定位脈診では1診目は命門の虚、2診目は腎虚、3診目は脾虚と臨床推論が可能であり興味深い症例であった。それにもない太谿配穴を3診目は、三陰交に変えた。
- ・五更泄治癒にともなう足冷えには変化がなかった。

\*石川ゼミは、1998年横浜で発足した中医学学習グループ。臨床研修、学習会、合宿研修を3本柱としている。